

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 6 部門第 3 区分
 【発行日】平成31年1月31日 (2019.1.31)

【公表番号】特表2018-500677(P2018-500677A)
 【公表日】平成30年1月11日 (2018.1.11)
 【年通号数】公開・登録公報2018-001
 【出願番号】特願2017-532043(P2017-532043)
 【国際特許分類】

G 0 6 F 3/041 (2006.01)

B 3 2 B 27/00 (2006.01)

【 F I 】

G 0 6 F 3/041 4 0 0

G 0 6 F 3/041 4 9 0

B 3 2 B 27/00 D

【手続補正書】
 【提出日】平成30年12月17日 (2018.12.17)
 【手続補正 1】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 5 0
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【 0 0 5 0 】

好ましい実施形態を参照しながら本発明を説明してきたが、当業者は、本発明の趣旨及び範囲から逸脱することなく、形態及び詳細の変更を行えることを認識するであろう。本発明の実施態様の一部を以下の項目 [1] - [2 0] に記載する。

[1]

第 1 の光学的に透明な接着剤組成物と、

前記第 1 の光学的に透明な接着剤組成物を実質的に取り囲んだ第 2 の遮光性接着剤組成物と、を含む、2 成分形接着剤層。

[2]

前記第 1 の光学的に透明な接着剤組成物は、波長範囲 4 0 0 ~ 7 0 0 n m において、約 9 0 パーセントを超える視感透過率、約 2 パーセント未満のヘイズ、及び約 1 パーセント未満の不透明度を有する、項目 1 に記載の 2 成分形接着剤層。

[3]

前記第 2 の遮光性接着剤組成物は、波長範囲 4 0 0 ~ 7 0 0 n m において、約 9 0 パーセント未満の視感透過率、約 2 パーセントを超えるヘイズ、及び約 1 パーセントを超える不透明度を有する、項目 1 に記載の 2 成分形接着剤層。

[4]

前記第 1 の光学的に透明な接着剤組成物は感圧性接着剤である、項目 1 に記載の 2 成分形接着剤層。

[5]

前記第 2 の遮光性接着剤組成物は感圧性接着剤である、項目 1 に記載の 2 成分形接着剤層。

[6]

約 5 マイクロメートル~約 2 ミリメートルの厚さを有する、項目 1 に記載の 2 成分形接着剤層。

[7]

第 1 の基材と、

第 2 の基材と、

前記第 1 の基材の少なくとも 1 つの主表面と前記第 2 の基材の少なくとも 1 つの主表面との間に位置して、前記第 1 の基材の少なくとも 1 つの主表面と前記第 2 の基材の少なくとも 1 つの主表面とに接触した 2 成分形接着剤層であって、

第 1 の光学的に透明な接着剤組成物と、

前記第 1 の光学的に透明な接着剤組成物を実質的に取り囲んだ第 2 の遮光性接着剤組成物とを含む、2 成分形接着剤層と、を含む積層体。

[8]

前記第 1 の基材及び前記第 2 の基材のうちの少なくとも 1 つが実質的に透明である、項目 7 に記載の積層体。

[9]

前記第 1 の基材、前記第 2 の基材、又は前記第 1 の基材及び前記第 2 の基材の両方は、ディスプレイパネル、タッチパネル、光学フィルム、カバーレンズ、又は窓から選択される、項目 7 に記載の積層体。

[10]

前記ディスプレイパネルは、液晶ディスプレイ、プラズマディスプレイ、OLED ディスプレイ、エレクトロウェットティング方式ディスプレイ、及び陰極線管ディスプレイから選択される、項目 9 に記載の積層体。

[11]

前記光学フィルムは、反射体、偏光子、鏡、防眩又は反射防止フィルム、抗破片フィルム、拡散体、あるいは電磁干渉フィルタから選択される、項目 9 に記載の積層体。

[12]

前記 2 成分形接着剤層は約 5 マイクロメートル～約 250 マイクロメートルの厚さを有する、項目 7 に記載の積層体。

[13]

少なくとも 60 、かつ相対湿度 80 % の環境に少なくとも 72 時間置かれてから室温まで冷却した後に透明を維持する、項目 7 に記載の積層体。

[14]

光学的に透明である第 1 の接着剤組成物を供給することと、

遮光性で、前記第 1 の接着剤組成物を実質的に取り囲んだ第 2 の接着剤組成物を供給することと、を含む、2 成分形接着剤層を形成する方法。

[15]

前記 2 成分形接着剤層は、約 5 マイクロメートル～約 2 ミリメートルの厚さを有する、項目 14 に記載の方法。

[16]

前記第 1 の光学的に透明な接着剤組成物は、波長範囲 400 ～ 700 nm において、約 90 パーセントを超える視感透過率、約 2 パーセント未満のヘイズ、及び約 1 パーセント未満の不透明度を有する、項目 14 に記載の方法。

[17]

前記第 2 の遮光性接着剤組成物は、波長範囲 400 ～ 700 nm において、約 90 パーセント未満の視感透過率、約 2 パーセントを超えるヘイズ、及び約 1 パーセントを超える不透明度を有する、項目 14 に記載の方法。

[18]

前記第 1 の接着剤組成物及び前記第 2 の接着剤組成物は、透明な基材上に供給される、項目 14 に記載の方法。

[19]

前記第 1 の接着剤組成物は感圧性接着剤である、項目 14 に記載の方法。

[20]

前記第 2 の接着剤組成物は感圧性接着剤である、項目 14 に記載の方法。

【 手続補正 2 】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

第 1 の光学的に透明な接着剤組成物と、

前記第 1 の光学的に透明な接着剤組成物を実質的に取り囲んだ第 2 の遮光性接着剤組成物と、を含む、2 成分形接着剤層。

【請求項 2】

前記第 1 の光学的に透明な接着剤組成物は、波長範囲 400 ~ 700 nm において、約 90 パーセントを超える視感透過率、約 2 パーセント未満のヘイズ、及び約 1 パーセント未満の不透明度を有し、前記第 2 の遮光性接着剤組成物は、波長範囲 400 ~ 700 nm において、約 90 パーセント未満の視感透過率、約 2 パーセントを超えるヘイズ、及び約 1 パーセントを超える不透明度を有する、請求項 1 に記載の 2 成分形接着剤層。

【請求項 3】

前記第 1 の光学的に透明な接着剤組成物と前記第 2 の遮光性接着剤組成物のうち少なくとも一つは感圧性接着剤である、請求項 1 に記載の 2 成分形接着剤層。

【請求項 4】

約 5 マイクロメートル ~ 約 2 ミリメートルの厚さを有する、請求項 1 に記載の 2 成分形接着剤層。

【請求項 5】

第 1 の基材と、

第 2 の基材と、

前記第 1 の基材の少なくとも 1 つの主表面と前記第 2 の基材の少なくとも 1 つの主表面との間に位置して、前記第 1 の基材の少なくとも 1 つの主表面と前記第 2 の基材の少なくとも 1 つの主表面とに接触した 2 成分形接着剤層であって、

第 1 の光学的に透明な接着剤組成物と、

前記第 1 の光学的に透明な接着剤組成物を実質的に取り囲んだ第 2 の遮光性接着剤組成物とを含む、2 成分形接着剤層と、を含む積層体。

【請求項 6】

前記第 1 の基材、前記第 2 の基材、又は前記第 1 の基材及び前記第 2 の基材の両方は、ディスプレイパネル、タッチパネル、光学フィルム、カバーレンズ、又は窓から選択される、請求項 5 に記載の積層体。

【請求項 7】

前記 2 成分形接着剤層は約 5 マイクロメートル ~ 約 250 マイクロメートルの厚さを有する、請求項 5 に記載の積層体。

【請求項 8】

少なくとも 60 、かつ相対湿度 80 % の環境に少なくとも 72 時間置かれてから室温まで冷却した後に透明を維持する、請求項 5 に記載の積層体。

【請求項 9】

光学的に透明である第 1 の接着剤組成物を供給することと、

遮光性で、前記第 1 の接着剤組成物を実質的に取り囲んだ第 2 の接着剤組成物を供給することと、を含む、2 成分形接着剤層を形成する方法。

【請求項 10】

前記第 1 の光学的に透明な接着剤組成物は、波長範囲 400 ~ 700 nm において、約 90 パーセントを超える視感透過率、約 2 パーセント未満のヘイズ、及び約 1 パーセント未満の不透明度を有し、前記第 2 の遮光性接着剤組成物は、波長範囲 400 ~ 700 nm において、約 90 パーセント未満の視感透過率、約 2 パーセントを超えるヘイズ、及び約 1 パーセントを超える不透明度を有する、請求項 9 に記載の方法。